



一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校

武蔵野小だより



変異型ウイルスは年齢に関係なく感染しやすいとのこと、要注意ですね！

令和3年4月30日発行

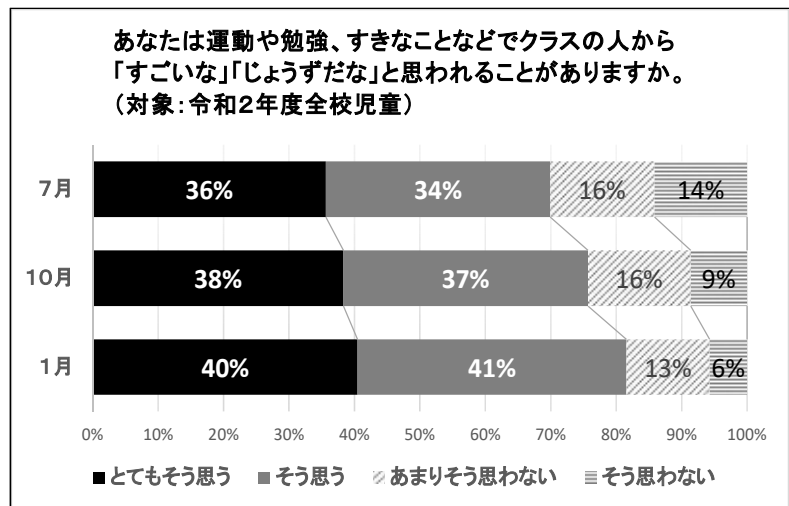
風薫る5月に

さわやかな風の中、校庭では体育の授業（50m走やリレー）に全力で取り組む子どもたちの姿が見られます。今は何をすることもよい季節、順調にスタートできた子どもも多く、学校全体に喜びがあふれているように感じられます。



「一人一人が安心して自分のよさを発揮できる学校」を目指します

右は、昨年度実施した「学校生活アンケート」の一部です。友達から自分のよい所を認められたと感じる子どもたちが増えています。1学期よりも2学期、さらに3学期と、学級での時間を重ねるほどその傾向は顕著になっています。人間関係の醸成は決して簡単なことではなく、とても喜ばしい変容と感じています。



しかし、学級の雰囲気は一朝一夕につくられるものではありません。特に周囲の環境や人間関係に変化のある4月から6月頃までは、多くの課題が生じます。言い換えると、この期間に子どもたちは様々な壁にぶつかり、試行錯誤しながらも自分なりに懸命に問題解決を図っています。それは1年生から6年生まで同様で、まさに成長のための貴重な機会、大事な時間を過ごしているのです。そこで、学校や家庭では周りの大人が子どもの様子を的確に把握し、その子に必要な支援を後方からそっと行いたいものです。「手助け」は最小限とし、最後に子どもが「自分で解決できた」と感じれば、それは将来に向けての自信となり自己肯定感にもつながります。

あわせて学校全体の前向きな雰囲気づくりも大切と考えています。子どもを中心に保護者や地域の皆様、教職員がそれぞれの立場を理解し、心の通った連携を進めることで、学校に関わる全ての人にとって「自分のよさを発揮できる学校」となることでしょう。今年度、本校がそのような存在となることを念願しております。

ほめて認めて、叱って諭し、また、ほめて伸ばす